



知って選ぼう 未来を描こう

# 阿部先生の 南風原小学校出前講座

阿部先生は2022年9月、南風原町立南風原小学校の5年生へ出前授業を行いました。この授業のテーマは次の二つ。

ぼくらの毎日が、世界を作っている

「こうなりたい!」という未来を描こう

これを伝えるために、阿部先生は次のようなお話をし、子どもたちはありたい未来像などをワークシートに書き込んでいきました。

## ぼくらの毎日が世界を作っている

まずはSDGsの全体像、17ゴールを一つずつ、分かりやすく説明した後、「SDGsというと、大きな会社や総理大臣がすることと思っているかもしれないけれど、そうではなくて、ちっぽけだと感じることで、実行することで世界は少しずつ良くなる」と伝えました。

身近に引き寄せるための具体的な事例として、こんな事例を挙げました。

事例  
1

おやつのパテトチップス。お店ではつい安い方を選んでしまうけど、みんなが安いものを求めると、メーカーは安く作るために、自然のジャングルを丸坊主にして安い油を取るためのヤシの大規模農園(プランテーション)を作って自然を破壊してしまったり、生産者への支払いを少なくして、生産者の子どもたちが学校に行けなくなってしまうことにつながる。そうではなくて、少し高くても、現地の自然を大切に育て方をした原料を使い、生産者に正当な支払いをして作られたものを選べば、買い物を通してその活動を応援することができる。

## ワークシート

Q1 どんな未来がいい?  
たくさん書いてみよう!

Q2 ①で書いた未来に関係しそうなゴールに○をつけよう



Q3 SDGsについてどう思う?  
自由に書いてみよう

Q4 今日、気付いたことや感想を  
自由に書いてみよう

年 組 氏名



事例  
2

修学旅行や慰霊の日などの平和学習で学んだと思うけど、日本や沖縄でも昔に戦争があった。今も戦争をしている国や地域がある一方で、戦争をしていないところもある。戦争をするかしないかも、実はぼくたちの行動次第。どんなことができるかな。



## 未来を描こう！

次に阿部先生は子どもたちに「こんな未来だったらうれしいなということ、思い浮かぶもの全部、ワークシートに書き出してみよう」と呼び掛けました。

ワークシートに書き込むのは、単語でも、どんな小さなことでも大丈夫。そしてSDGsの17ゴールから、自分が書いた未来像に関係しそうなものを2つ以上選びます。

狙いは、こうしたいと自分が思うものとSDGsが関連していると気付くこと。「SDGsは特別なものではなく、自分が望む未来を創ることがSDGsを進めることだと理解してほしい」と阿部先生は話します。



そして阿部先生はもう一つ大切なこととして「知ること」と挙げました。例示したのは「おにぎりアクション」。おにぎりの写真をSNSに投稿すると、アジアやアフリカの子どもたちに給食をプレゼントするという、たくさんの企業やNPOが協力して取り組むプロジェクトです。「そんなことができる」と知っていたら、やろうと思うかも。知っていれば選ぶことができるし、選ぶものも変わる。世界が広がる」と話しました。



ここがポイント

## 未来から逆算 バックキャストिंग

未来を描く理由を、阿部先生は「ありたい未来をイメージすることで、そのために何をすればいいかを考えることができる」と説明します。SDGsに関わる活動では「ビーチクリーンをしよう」など「何をするか」から始めるケースがありますが、それでは手軽にできることで小さく収まってしまうやすくなります。「どうありたいか、が一番あって、次に「そのために何をするか、がある」と阿部先生。実現したい未来から逆算して今、何をしないといけないかを考え、実行する「バックキャストिंग」は、SDGsの大切な考え方の一つです。

こんな未来がいいな

そのために何をする？

